

あべともこニュース

混沌とする戦禍を止め、人権が守られる社会を。

◆子ども子育て支援金は「社会連帯」？

11日、子ども・子育て支援法等改正案について質問をしました。政府は子ども・子育て支援金制度を創設し、2028年度までの3年間で「兆円を確保する」と言います。支援金は医療保険に上乗せされ幅広く徴収されます。しかし、医療保険は健康を守るために保険者（国保であれば市町村）と被保険者が支える仕組み。「保険原理を踏み外す」「保険者の機能侵害と自治を侵害する」と質したところ、武見厚生労働大臣は、真正面から答えず。

加藤少子化対策担当大臣には、「若い世代ほど社会保険料負担が重い。新たな支援金負担は少子化対策の逆行では」と質問。答弁は「全世代、全経済が社会連帯で子育て世帯を支えて、若い世代の負担は軽い」。答えになっていません。子ども・子育て施策は皆で支えていくなら、税財源を中心にすべきです。

19日衆議院本会議で法案は可決。立憲民主党は反対。これからも廃止を求めていきます。

◆今、なぜ即時停戦か！？

11日、第8回「超党派 人間の安全保障外交の推進を考える議員有志の勉強会」は、酒井啓子先生（千葉大学特任教授）から「今、なぜ即時停戦か！？深刻化する紛争をめぐって」をテーマにご講演いただきました。

日本政府は、ガザのライフランを支えるUNRWAへの拠出金を再開したものの、国会も即時停戦を求める決議を上げるまでには至っていません。

「複雑化する中東状況下で、イスラエルの攻撃を停止をさせられず、停戦したとしても、ガザ避難民をどう守れるか、そして、国際的なイスラエルへの反感が新たな暴発を招く可能性もある」と酒井先生のご指摘。

イスラエルとイランの戦闘も勃発し、不穏な情勢ですが、日本国憲法の謳う平和的生存権の再生に向けて、各国が連携して歩むべきです。

◆災害弱者ケアを手厚く

東日本大震災を契機に、自力での避難が困難な人をリスト化して個別に避難計画を策定することが自治体に求められました。併せて避難所の受け入れやコミュニケーション体制などについて能登半島地震ではどうだったのか、あべともこが事務局長を務める「補助犬連」で勉強会を行いました。

石川県内半数近くの自治体で、支援が必要な人の避難計画を活用できず、救助の先にある避難所でもさらに孤立を深めている実態が指摘されていますが、そうした中で、それまでの行政通知でなくX（旧ツイッター）で情報発信したところ、素早く周知できたという興味深い報告も。情報弱者へのタイムリーな発信は今後の課題です。

また、浜松市消防航空隊がヘリコプターによる盲導犬同伴の救助訓練を動画で報告。

片時も離れまいとするユーザーと補助犬との固い絆に感動が広がりました。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県12区（藤沢市・寒川町）
 当選8回、東京大学医学部卒業、
 小児科医、あべともこ子ども
 クリニック（湘南台）理事長
 現在、厚生労働委員会
 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ
 公式X (旧Twitter)
 @abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ
 公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索

あべともこ後援会入会及び、
 ボランティアスタッフ募集

身体障害者	
身体障害者手帳を交付されている身体障害者	
全国57万人(総人口)	
総人口1億2454万5千人の9%	(令和5年9月推定)
視覚障害者	: 32万1千人
聴覚・言語機能障害者	: 44万2千人
肢体不自由	: 239万7千人
知的障害者(知的能力二の二の二の二)	: 162万5千人
音声・言語・聴覚機能障害者	: 5万9千人
(5万9千人(聴覚及び聴覚機能障害者))	: 1万4千人以上

